

エリーニ・ユネスコ協会主催

2019
1/26

特別講演会

「縄文の不思議を探る」を開催

エール予備校



エリーニ・ユネスコ協会では、会員の樋浦忠司氏が講師となり、「縄文の不思議を探る」をテーマに特別講演会をエール学園をお借りして開催した。この会は、一般的な講演会ではなく講師も含め、みんなで縄文時代の生活や文化などを語り合い、学び合おうというものである。初めての試みにも関わらず、五〇名以上の参加者があり盛況のうちに始めることが出来た。

講師の樋浦氏は、縄文時代の基礎知識を丁寧にわかりやすくお話ししてくださるとともに 講話の途中で話の内容について会場の皆様と意見交換するなど、参加者は本当に楽しく学ぶことが出来たと思う。



また、樋浦氏は、栃木県教育委員会と交渉し、益子町御霊前遺跡出土の火焰土器（本物）を、わざわざ栃木県まで出てきてくださり、また、その博物館で再現された縄文時代のお菓子を

買ってきてくださるなど、実際に目で見、口で味わうなど縄文文化を肌で感じることが出来る仕掛けをしてくださった。その結果より身近に縄文時代を感じることが出来印象的な講演会となった。ちなみにお菓子は休憩時間においていたことが出来た。また、火焰土器は大変貴重な物であるが、直接手で触れてもよいとの博物館の許可があり、講演後、恐る恐る土器に触れる人、その様子を写真に収める人など、めったにない貴重な体験に、参加者は少々興奮状態に陥っていた。

参加者アンケートによると「わかりやすい説明がよかった。縄文時代の考え方が変わりました」「さらに縄文時代の勉強をしたいとの思いを持った」「本物に触れて感激した」「聞いて、見て、触って、食べてわかりやすかった」「次回も参加したい。期待している」等々、非常に好評であり、縄文時代をテーマとした学習会活動に大いに期待を抱かせるものであった。

昨年は東京国立博物館、パリの日本文化会館で縄文展が開催され、他に例を見ない世界に誇れる縄文文化は、近年、国内だけでなく世界の

人々から注目を浴びている。東京国立博物館で開催された展覧会は、NHKでも特別番組で放映され、一万余りの長期間にわたって続いた縄文時代に生きた、人々の豊かな感性と造形美、そして精神文化は、日本の美意識の原点を見ることができ、大きな感動を与えてくれた。

ユネスコ世界遺産とは、現在を生きる世界中の人びとが過去から引継ぎ、未来へと伝えていかなければならない人類共通の遺産とされている。

エリーニ・ユネスコ協会では、一人でも多くの人々に縄文文化に興味・関心を持っていただくことによって、その素晴らしさを未来へ繋げていけたらと考えている。そして、縄文時代を学び合う会を、今後も定期的に開催できればと考えている。(今堀順壽)

